

2022 年度 3 月学校関係者評価報告書

実施日：2022 年 3 月 23 日（木）

2022 年 3 月

北斗会看護専門学校

学校関係者評価委員会

1. 学校長挨拶

平素より本校の教育にご協力いただきありがとうございます。本学校関係者評価委員会は、外部の方々にご参加いただき、本校の教育の現状と運営を客観的に評価していただいております。本会で出された意見や提言等を参考に本校の教育の質の向上を図りたいと考えています。

本会は、コロナ禍の出現と時を同じくして発足しましたが、今やっと終息の兆しが見え始めました。ポストコロナの本校の教育を今後はみていただけることを楽しみにしています。

次年度は新カリキュラムと旧カリキュラムが共存する年となり、大変ではありますが、ご意見をいただきたいと思っております。本日はどうぞよろしく願いいたします。

2. 委員及び参加者紹介

学校長、学校事務長、副学校長、教務主任、

教育に関する分野の有識者、講師関係者として

市山 喜代美 様

学校周辺の地域に精通する地域住民または地元企業関係者として

未来 SS 義塾 豊中市保護区保護司会 地域での育成活動を行われている

山本 和央 様

関連業界等関係者として学校周辺の病院施設および、卒業生の受け入れ実績を有する病院の管理者、教育に携わる

公益財団法人唐澤記念会 大阪脳神経外科病院 師長

村松 宏美 様

…計7名

3. ス本日のケジュールについてレジメに基づき説明

—本日の議題について—

- 2022年度 自己評価概要説明
- 2022年度 重点目標の評価概要説明
- 意見交換
- 説明についての質疑応答
- 課題についての討議

4. 資料に基づき自己評価の概要説明

【改善策】

1. 次年度は新カリキュラムと旧カリキュラムで運営されることとなる。授業計画の発展に向けて体制を整えることが最重要課題と考えている。旧カリキュラムと新カリキュラムの運営担当マネージャーを置き、それぞれに運営を行う。また、ティール組織となるよう各担当チームで目標をあげ、教職員全体で共有し、学校運営を活性化させていく。教員一人一人のセルフマネジメント能力の向上を期待し、学生の基礎学力の向上に向けて取り組みたい。

2023 年度重点目標「全ての学生と教員が看護は楽しいとイキイキする学びの場～看護専門職としての学生一人一人を大切にした教育～」を挙げて取り組む。
2. 新型コロナウイルス感染症により、思いやりと感性を育む教育として大切にしてきた学校行事が、3年に渡り縮小、中止されてきた。次年度はできる限り中止されていた学校行事を再開する。
3. 2023 年度は中期目標 5 か年計画の 5 年目となる。「定員 40 名を満たした魅力ある学校づくり」の目標は達成したものの、准看護師学校の閉校や 2 年課程の閉校は続き、全国的な学生充足率の低下が進んでいる中、准看護師学校からの期待は大きく「是非、帰校は存続し続け、准看護師の受け皿となって欲しい」と要望の声を聞いている。教育の質の確保とともに、学生数を確保することは課題である。数値目標として、より積極的な働きかけが必要と考える。
 - 1) 受験者倍率 1.5 倍を目指し、学校の魅力をより多くの人に伝える取り組みの継続
 - ・新たなパンフレットの作成
 - ・HP を有効活用ーリモートオープンキャンパス、学校生活の UP
 - ・大阪府看護学校協議会の学校 PR 動画への参加
 - ・様々な学校紹介への参加
 - 2) 学校訪問の拡充
 - ・法人と協力し学生及び将来病院職員となる奨学生のアナウンスの機会を増やす
 - ・入学生の出身校への訪問
 - ・学生の様子を伝える機会を増やす
4. キャリア教育の充実
 - 1) 希望者就職 100%
 - 2) 大阪府内の就職率 80%以上
 - 3) キャリアガイダンスの充実とキャリアデザインサポート（キャリアサポ）の充実

5. 重点目標の説明 ー資料に基づき重点目標と計画の概要説明ー

2022年度 重点目標

1. 感染防止対策と学生への支援

2. 指導力の向上

重点目標	1. 感染防止対策と学生への支援
-------------	-------------------------

感染対策については日ごろから換気、黙食、消毒など学生へアナウンスしている。今年度の実習では感染や濃厚接触者となったことに伴う欠席のため、補習実習、再実習、特別講義、追加試験が多くみられた。実習については時間と内容を補うため12月から2月までの間に実習が行われ、講義も同じく2月に行ない、全員が単位修得することができた。国家試験も無事42名が全員受験することができた。

感染に伴う健康被害についても相談にのりながら、症状の軽減に向けた受診、学習の継続へ配慮した。国や法人の対策や動向をみながら、今後も学生に不利益とならないように配慮していく。

重点目標	2. 指導力の向上
-------------	------------------

今年度は新カリキュラムに向けた申請と単位制に向けた申請を行い、無事認可を受けることができた。次年度は1年生の新カリキュラムと2年生の旧カリキュラムで運営されることとなる。

運営に当たっては具体策の検討や実施、評価、修正を行い、時間をかけて検討する必要がある。各科目の授業計画の立案と、ディプロマポリシーの明確化、さらに教員全体で情報共有し、より発展させ、教育内容を充実させていく。

実施にあたっては、旧カリキュラムと新カリキュラムの運営担当マネージャーを立て、それぞれに運営を行う。また、教職員全体で共有し、学校運営を活性化していく。

学習については、卒業前のアンケートでは授業内容について満足とまあ満足を合わせて95%、学習会については同じく95%、国家試験対策も95%と学習支援全体については高い満足度が得られている。しかし、学生間の基礎学力の差は大きく、ニーズも様々である。学生の状況を確認し、計画する必要がある。

社会人基礎力の向上については、入学前から「社会から求められる看護専門職について」「社会人基礎力」の自己評価と「自己評価して感じたこと、これからの自分の目標、具体的な取り組み」について、学校生活の中で振り返る時間を持つことで、意識して学ぶことができている。

45 回生（1年生）は看護師としてのビジョンを持つことができるように入学期後ビジョン

ワークを行った。学生間の交流ができました。

入学後には理事長特別講義が行われ、教育理念、社会医療法人北斗会医療憲章『病をもつ“ひと”をみる人のための10か条』を理解することで、思いやりや感性の必要性は理解した。クラブ活動、ボランティア活動が活発で2年生とも交流を持っています。

44回生は卒業前アンケートで「本校で学べたこと」の中には「思いやり」や「看護師としての姿勢」「人間関係」とする意見が多くみられた。

相手の立場を思いやる姿勢がもてる学びの機会を作ることは今後も大切にしたい。その一つとして、感染対策を行いながら学校行事を例年に近づけ、学び成長する機会を整える。

次年度の重点目標としては、

「全ての学生と教員が看護は楽しいとイキイキする学びの場～看護専門職としての学生一人一人を大切にしたい教育～」

を重点目標に教育内容の充実を図り、教職員が一丸となって発展させていきたい。

そのために①授業計画の立案、授業評価を教員間で行い情報の共有と教育内容の発展を図る。②学校行事を従来に近づけ、学生間、学年間の交流を図り思いやりと感性あふれる教育場面の充実を図る。③基礎学力の向上に向けて支援する。④教員一人一人のセルフマネジメント能力の向上により教育の質を高めることを方針・目標として取り組みたい。

6. 意見交換

(山本)

- ・新カリ、旧カリはそれぞれディプロマポリシーが違うのか。
⇒旧カリでは具体的にディプロマポリシーとして明示はされていなかったが、卒業時の像などは従来よりあった。今回それをディプロマポリシーとして、明確にした。
共通するものはあるが、それぞれ、1年生と2年生が違う科目であったり、学習で計画される。新カリのディプロマポリシーを明文化してはいるが、次年度初めて実施することとなるので、各授業の実施、評価、修正することは必要と考えている。
- ・合格率は記載されていたが、人数はどうですか。
⇒前年度の43回生は37名受験し、36名合格。今年度は44回生、42名全員受験することができた。結果は24日に発表される予定。(注:42名全員、昨年度合格できなかった学生1名の学生合わせて全員合格したことをご報告)
- ・コロナで行事などもできていなかったようで、今後は行事や地域活動も進めたいということだが、私は地域活動も行っているので、学校が参加できることがあれば、参加してもらうことも可能です。

- ・ ナイチンゲール祭などは何か地域活動へ参加しているか。
⇒学内で看護研究の発表会とナイチンゲール祭をしているので、地域に出た活動は行っていない。
- ・ 豊中市でも様々な施設から地域活動に参加できる。
- ・ 「教員の資質の向上への取り組みを行っているか」の項目は他に比べて少し低い評価ということだが、研修の参加が少ないのはコロナによる影響で研修自体が少ないのか。
⇒研修の数は増えてきている。教員の人数が少なかったり、実習に出てしまうと時間がとれなかったり、今年度はカリキュラムの改正のための準備もあり、研修参加が時間的にも取れていなかった。大切なことなので、研修の参加はできるように整えていきたい。

(市山)

- ・ カリキュラムの改正の意図は、地域・在宅への理解、対象の多様化を踏まえてそれに対応できる看護師の育成があると理解した。
- ・ ディプロマポリシーの明文化ということは、今までは明文化されていなかったということか。
⇒教育のねらいは従来もあったが、学生に浸透させるようなディプロマポリシーとしては今までなかったので、この度、明文化した。
- ・ 魅力ある学校に向けて、医療憲章の10か条は地域の中での意味や高齢者への支援なども考えると、大変意味のある学校独自のもの。学生の自立と責任を養うためにも大切にしてください。
- ・ HPではどんなクラスか、どんな先生か、どんな先輩か、など気になっている。動画などで知ってもらうこともいいのではないか。
⇒そういったことも検討していきたい。
- ・ 新カリの学生と旧カリの学生はたまたま1年違っただけなので、就職してからは求められることは同じ。学校では必要なことは同じように伝えていくといいと思う。
- ・ 医療的ケア児についても2023年度には地域支援が必要となることもあり、地域に向けた理解はより高まっていて、地域の充実が必要。先を見据えて教育に取り入れていくことは必要。
- ・ 社会人基礎力の向上は意欲の向上、基礎学力の向上につながる。実習の学びも大きく、相手を知るためには大切。言いたいことを伝える力も必要。

(村松)

- ・ 卒業生が就職して、例年と比べて影響がなかったという病院の方の評価は、先生方がそのようにご指導された結果だと思う。大変だったと思います。
- ・ 就職した卒業生に対してもコロナが落ち着き、ご家族と関わることも増えて、対応力や社会人基礎力の指導が必要となっている。接遇など指導しているところです。
- ・ 先生方に就職した学生の病院に来て欲しい。卒業生はそれぞれに悩みがある。学校の先生に相談ができるとありがたい。

・ここは向いてませんといろいろな病院を回っている看護師もいるが、新卒で退職を悩んでいる人は、とても悩んでいると思います。母校の先生にサポートしてもらおうと心強いと思う。

⇒卒業生は良く学校に訪問してくれている。数年前には実習でお手伝いをしてくれた。

40名ほども卒業生に話を聞いたこともあったが、卒業後の把握については不十分なことが一つの課題。卒後就職の状況はどうかなど把握できるように今後検討していきたい。

・卒業生の意見交換の場も大切。いろんなツールを使って、話ができる場が作れないだろうか。卒業生の励みになると思う。卒業後も見ていただくと学生は安心。

・異学年の交流は大切。先輩はとても大きな存在。講義での先輩からの説明なども面白い。

⇒2年生から1年生に説明をしてもらうような講義の場面は、先輩の話はよく聞いている。そういった場面を作っていきたい。

(井上事務長)

・2023年度の重点目標「看護は楽しい」と思えることは、今までの当たり前のことができない状況となったこの3年間だったが、充実した学校生活が送れるようにいろんな思いが含まれていると思う。入学した学生が全員卒業できた当事者の学生たちの様子から、「いきいきと」していけるように運営していきたい。

(並川)

・入学前から卒業に向けてのシステム作りを進めていきたい。ご意見を参考にしていきたい。

(石川)

・一度には難しいが、いただいたご意見を参考に、少しずつ取り組んでいきます。

7. 学校長による総括

WBCの栗山監督が言っていたよう「信じる」こと、我々も学生の力を信じていく、そしてサポートしていく、そのように学校を運営していきたい。

8. その他

・次年度の学校評価スケジュール

・次回の会議日程

2023年6月2日(金) 14:00～

本校にて 2023年度重点目標計画表提示 ご意見拝聴